



げんどう なに い たいせつ

さわやかな言動（何かを言ったり、したりすること）を大切にして
いますか？

今回は、本校のめざす学校像「ひたむき・ぬくもり・さわやかを共に大切にする 山口県一美しい福栄小中学校」とめざす児童生徒像「ひたむきな児童生徒 ぬくもりのある児童生徒 さわやかな児童生徒」の中にある「さわやか」について、今の自分をふり返ってみてほしいと思います。



さわやかな言動（何かを言ったり、したりすること）とは、具体的にどのような言動をさすのでしょうか。いくつかあげてみながら、それに関する日頃の皆さんの言動について思っていることを書いてみたいと思います。

まず、人のためやみんなのために汗を流すこと。毎日の掃除や委員会活動では、多くの人が黙々と取り組んでいる様子を目にします。先日も、雪が積もったときには、中学生がそこを通る人が助かるように北門や玄関、昇降口あたりの雪かきをしてくれました。さわやかな行動でした。人のためやみんなのために汗を流すことができる児童生徒が多いのは、福栄小中学校のよさの1つだと思っています。これからも大切にしてほしいことです。

次に、いつでも、どこでも、誰に対しても、何度でもさわやかなあいさつができること。これについては、残念ながら、全体的にまだまだのレベルです。自分ではあいさつをしているつもりの方は多いと思いますが、それが相手にどのように伝わっているかというところまで考えてあいさつをしている人は少ないのではないのでしょうか。100点満点で言えば、福栄小中学校の児童生徒のあいさつは、中学生は80点、小学生は60点といったところでしょうか。「山口県一、相手にさわやかに伝わるあいさつ」になるためには、何が足りないのでしょうか。



まずは、「いつでも、どこでも、誰に対しても、何度でも」ということをしっかり意識することです。意識しなくてもできるようになったら、本物なのです。少し遠く離れていても、相手の姿が見えたら、まず、大きな声であいさつを届けることです。近づいたら、今度は相手の顔を見て、おなかの底からはっきりとした声であいさつを届けることです。そして、心をこめて会釈をすることです。必ず相手にさわやかな気持ちが伝わり、何と云っても自分自身がさわやかな気持ちになれるはずですよ。

最後に、自分が失敗をしてしまったときや悪いことをしてしまったときは、正直に謝ることができるということ。最近、学校のあちらこちらの壁や天井に穴が空いたり、へこんだりするということが続いています。掃除のとき、誤ってほうきやテーブルが当たったりしたのだらうと思いますが、誰も正直に名乗り出てきません。さわやかさが全くありません。人間だから、失敗はあります。大切なことは、その後どんな行動がとれるかということではないのでしょうか。黙って、ごまかしているつもりになっているのでしょうか。自分がやってしまったことを一番よく知っているのは自分自身です。人間、いつもさわやかでありたいと思います。

